

砂漠の博物館



上記の写真の説明
一番奥に広がっている町はエジプトのカイロ南西。
三つのピラミッドは、奥から第4王朝のファラオであるクフ王、
カフラー王、メンカウラー王の3つのピラミッド。

■ 構想

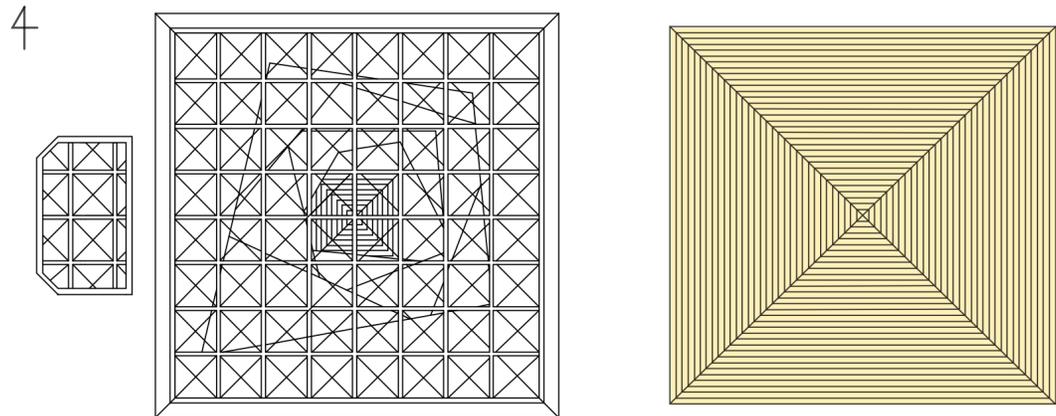
エジプトの首都カイロから電車で1時間の砂漠地帯に位置する、
世界遺産「メンフィスとその墓地遺跡-ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯」を計画敷地にしました。
この地帯にある三大ピラミッドのうち、最も小規模な（高さ65メートル）メンカウラー王のピラミッド西側に砂漠が
広がっています。ここが今回の設計場所です。

計画理由としては、このピラミッド群には毎年多くの人々が訪れるにもかかわらず周囲には観光できる場所がないとい
う事実を知ったからです。せっかくならラクダに乗って来たのに周りを歩いてすぐに帰るとするのが現状です。
また、今回の課題分にある Ground・テレストリアル・天と地 という言葉とも相性がよさそうだと思います。

そこで私は、観光客が壮大なピラミッドを登頂行為をするがごとく体験でき、
さらにエジプト文明を学べる博物館を提案します。

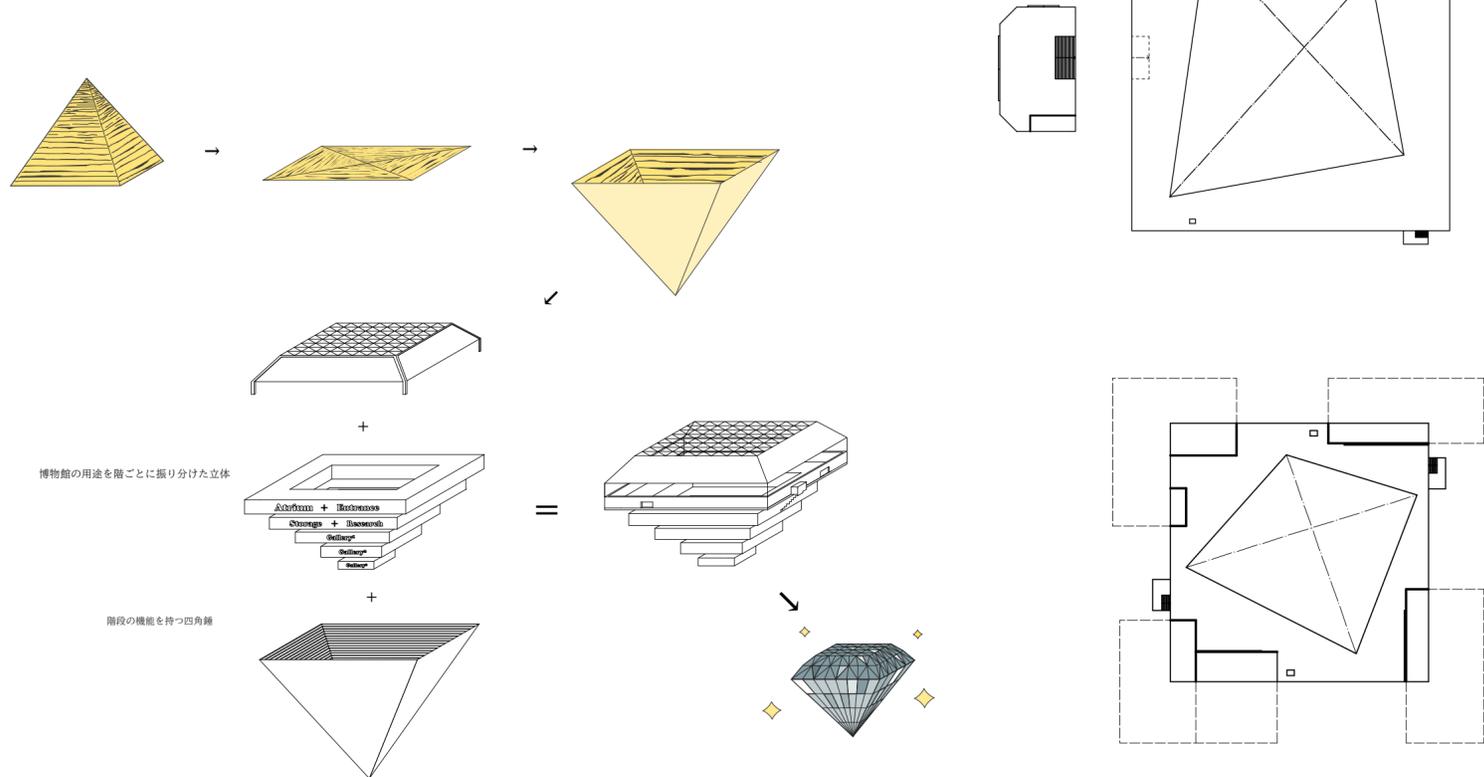
■ 計画

砂漠の地下に深さ65メートルの逆四角錐が埋まっています。
その巨大な立体は、内に向かって4面が階段の機能を持っていて、
地上1階からアクアリウム、収蔵・研究、展示室Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地下アクアリウムと、レイヤー状になっています。
巨大階段を降りていくに連れて、エジプト文明の雰囲気は濃くなっていきます。



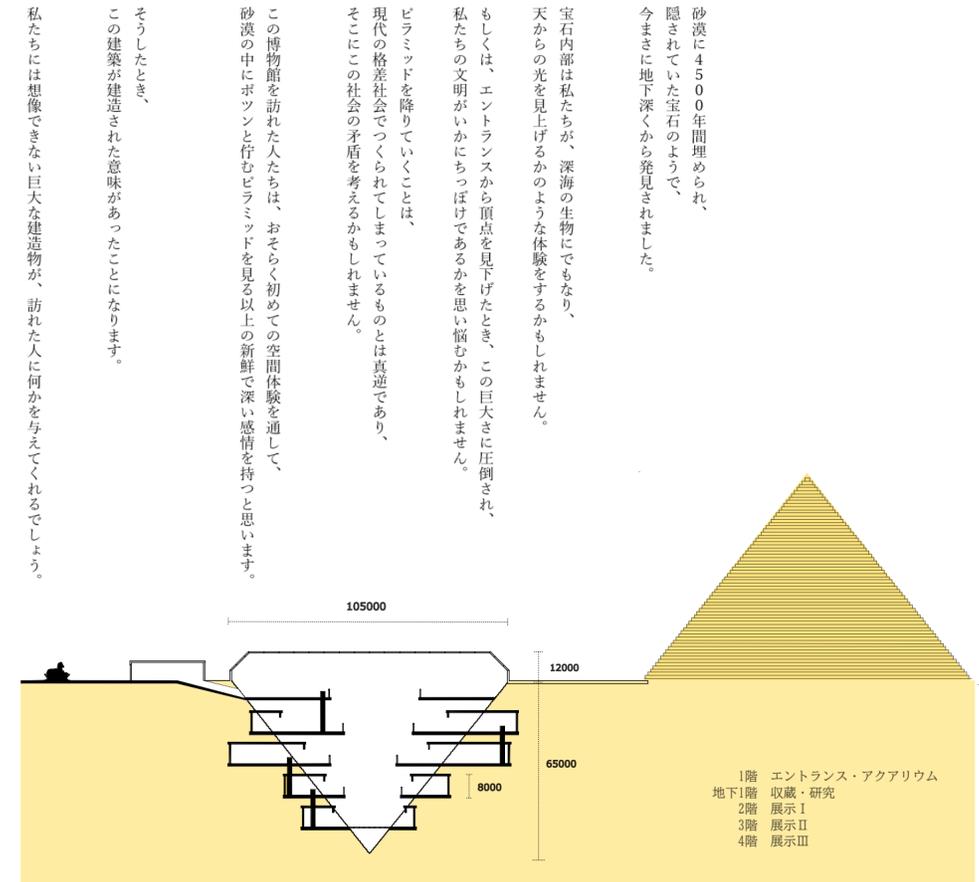
■ 設計手順

4500年前から存在する巨大な立体を頂点から真下へ凹ませます。
地下まで凹ますと縦横105メートル深さ65メートルの巨大な階段が出現しました。
そこに人為的に博物館の用途を付けた立体を挿入しました。
この立体は5層からなり、どの層からも最下層のピラミッド頂点部を眺めることができるように設定しました。
また、屋根は地下深くまで光を取り入れるために大部分にガラスを採用しました。



博物館の用途を階ごとに振り分けた立体

階段の機能を持つ四角錐



- 1階 エントランス・アクアリウム
- 地下1階 収蔵・研究
- 2階 展示Ⅰ
- 3階 展示Ⅱ
- 4階 展示Ⅲ

砂漠に4500年間埋められ、
隠されていた宝石のように、
今まさに地下深くから発見されました。

宝石内部は私たちが、深海の生物にでもなり、
天からの光を見上げるかのような体験をするかもしれません。

もしくは、エントランスから頂点を見下ろしたとき、この巨大さに圧倒され、
私たちの文明がいかにちっぽけであるかを思い悩むかもしれません。

ピラミッドを降りていくことは、
現代の格差社会でつくられてしまっているものとは真逆であり、
そこにこの社会の矛盾を考えるかもしれません。

この博物館を訪れた人たちは、おそらく初めての空間体験を通して、
砂漠の中にボツンと佇むピラミッドを見る以上の新鮮で深い感情を持つと思います。

そうしたとき、
この建築が建造された意味があったことになりそうです。

私たちに想像できない巨大な建造物が、訪れた人に何かを与えてくれるでしょう。